

JA全農ウィークリー

2
面

低温保管倉庫を備えた 「千葉米ターミナル北総」竣工 (千葉県本部)

5面



発行した『全農リポート2019』
(5面)



広島県本部が協賛した第20回ひろしまクロスカントリー大会(2面)



竣工(しゅんこう)した千葉県本部の北総広域連合農業倉庫＝千葉米ターミナル北総(2面)

『全農リポート2019』を発行
事業内容や取り組みを幅広く解説（店

2 ひろしまクロスカントリー大会に協賛
(広島県本部)

3 ダイソー国産果汁菓子シリーズに 4品追加販売(くらし支援事業部)

「日本の食を味わう」ツイッター開設
(広報・調査部)

4 「防疫マニュアル」の重要ポイント④ (畜産生産部)

6 JAズームイン(JAえひめ南)

7 青果情勢(園芸部)

8 10月の第1回国際畜産資材EXPOに出展(畜産生産部)

JAタウンショップ紹介

三重の味自慢(JA全農みえ)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



「千葉米ターミナル北総」が竣工

低温保管倉庫を備え、集荷販売拡大に向け活用

千葉県本部



北総広域連合農業倉庫の竣工を祝い関係者がテープカット



約6700トンの収容能力がある低温保管倉庫

千葉県本部は7月、千葉県八街市に米穀倉庫として北総広域連合農業倉庫（愛称：千葉米ターミナル北総）を竣工しました。

県内JAグループの農業倉庫は老朽化が進んでおり、

一方で実需者からは年間を通じて安定した品質を求められていることから、保管倉庫の確保は集荷販売を拡大するうえでの課題となっていました。

これらへの対策として、低温保管機能を持つ倉庫を県内や首都圏からアクセス

の良い県中央部の八街市へ新たに設置しました。

この倉庫には、低温保管倉庫が3室設置されており、最大約6700トンの収容能力があります。また、農産物検査場として活用し、JAとの連携による生産者からの直接集荷拡大の拠点となります。

今後、この倉庫をJAグループ千葉の戦略的集荷販売拠点として十分に機能させ、千葉米の集荷販売拡大に向けて活用していきます。

News!



ひろしまクロスカントリー大会に協賛

参加者へ県産果汁飲料「ひろしまの藻塩はっさく水」提供

広島県本部



参加者に提供した「ひろしまの藻塩はっさく水」



広島県本部が協賛した第20回ひろしまクロスカントリー大会

広島県本部は8月24日、庄原市内で開かれた第20回ひろしまクロスカントリー大会（広島陸上競技協会、庄原市など主催）に協賛し、参加者全員に県産果汁飲料「ひろしまの藻塩はっさく水」を提供しました。

ひろしまクロスカントリー大会は、自然豊かな道後

山高原を駆け抜ける大会です。ファミリーや小学生が走る1キロから、トップアスリートが走る8キロまでさまざま

な種目で開催され、1813人が参加しました。

広島県本部はゴール後、参加者全員に「ひろしまの藻塩はっさく水」を提供しました。「ひろしまの藻塩はっさく水」は、広島県産はっさくと「海人の藻塩（あまびとのもしお）」※を使用し、飲みやすく仕上げた飲料で、運動後の水分・塩分補給にお勧めです。参加者から「走った後に飲むとおいしい」と好評でした。

広島県本部は、スポーツを頑張るすべての人たちを「ひろしまの食」を通じてサポートしていきます。

※古代に瀬戸内地方で行われていた製塩法「藻塩焼き」により作られた塩。



ダイソー国産果汁の菓子シリーズに新商品

好評につき「瀬戸内産塩レモンゼリー」など4品追加販売

くらし支援事業部

全農が「100円SHOPダイソー」向けに展開する国産果汁の菓子シリーズに、新たに4品を追加発売しました。

全農は(株)大創産業(ダイソー)と、産地指定の国産果汁を使ったグミ、キャンディー、ゼリーの菓子を共同開発し今年3月に発売しました。この「産地指定」国産果汁菓子シリーズは12品でスタートしましたが、フレッシュなおいしさと果汁感について大変好評いただいていることから、新商品として6月に「瀬戸内産塩レモンゼリー」を、7月に「沖縄県産パイナップルゼリー」「沖縄県産パイナップルグミ」「宮崎県産マンゴーグミ」を発売しました。

今後も定期的な商品の見直しはもちろんのこと、お客さまに店頭で果実の旬を感じていただけるよう、季節に応じた商品開発に努めていきます。



瀬戸内産塩レモンゼリー



沖縄県産パイナップルゼリー



沖縄県産パイナップルグミ



宮崎県産マンゴーグミ



「日本の食を味わう」ツイッターを開設

全農の取り組みや国産農畜産物について幅広く発信

広報・調査部

広報・調査部は7月17日から、消費者に、「日本の食」に関心を持っていただき、また、全農を身近な存在に感じていただくことを目指し、「日本の食を味わう」ツイッターで情報発信しています。

広報・調査部は、スポーツ支援の取り組みを発信する「スポーツ応援」、食農教育の取り組みを紹介する「食農応援」と「田んぼの生きもの調査」の三つのツイッターアカウントで発信してきました。今回、「日本の食を味わう」ツイッターを新たにスタートしました。

8月からは、スーパーで購入したミニトマトの種を発芽させて育てる企画を始めており、成長の様子を投稿しています。

全農ホームページから見ることが出来ます。ぜひフォローをお願いします。

全農広報部 日本の食を味わう【...】
#地味弁、ご存じですか？

華やかさより美味しさを追求し、頑張らなくていいお弁当が、地味弁だそうです。

「地味弁.com」では、お手軽なのに素敵な地味弁アイデアをたくさん紹介しています。覗いてみてくださいね。
jimiben.com

#全農地味弁 @jimiben_zennoh



地味弁.com - 今度も地味弁でいいじゃない！毎日届けられるお弁当生活！【全農...】
見た目の華やかさよりも美味しさを、毎日届けられる現物だけでなくいいお弁当。それが地味弁です。料理家10人による地味弁レシピを公開中。
jimiben.com



『日本の食を味わう』
ツイッターはこちらから



全農の取り組みなどを紹介する「日本の食を味わう」ツイッター



「防疫マニュアル」の重要ポイント④

豚コレラの発生が続いています。JAグループ全体で防疫のさらなる強化を目指すべく「防疫マニュアル」の配布と講習会を実施しています。マニュアルの重要なポイントを紹介するシリーズの第2回は、畜産農家や畜産関連施設などを訪問した際の車両の洗浄・消毒についてです。

【畜産生産部】

※なお、家畜伝染病の発生地域においては、この限りではありません。

車両の洗浄・消毒



車体の洗浄・消毒

畜産農家や畜産関連施設などの移動に使用した場合はその都度、実施します。

高圧洗浄機、または動力噴霧器を使い、車体の洗浄・消毒を行います。タイヤおよびタイヤハウスの汚れを落とし、消毒することが重要です。洗車機などで洗浄した場合も同様に、動力噴霧器等で足回りの消毒を必ず行いましょう。

※畜産農家の衛生管理区域に立ち入る場合は、農場のルールに従い、「防疫マニュアル」p.7を併せてご確認ください。



高圧洗浄機による車体の洗浄



タイヤやタイヤハウスの洗浄・消毒が重要



車内の消毒

消毒用アルコールなどを用い、フロアマット、ペダル、ハンドル、シフト、座席シート、ドアノブ類等を消毒します。足元のフロアマット、ペダルは入念に消毒します。



フロアマットやペダルは入念に消毒する

地面と接触する足回りは病原体を持ち運ぶ危険性が最も高いです。タイヤ・タイヤハウス、フロアマット・ペダルは入念に消毒しましょう。

消毒薬の種類・希釈方法などの詳細はマニュアル・動画をご確認ください。全農畜産総合情報サイト「JACCネット」から閲覧できます。



ご意見・ご要望等ございましたら、お気軽にご連絡ください。

問い合わせ先：全農 畜産生産部 推進・商品開発課 TEL:03-6271-8236 FAX:03-5218-2526

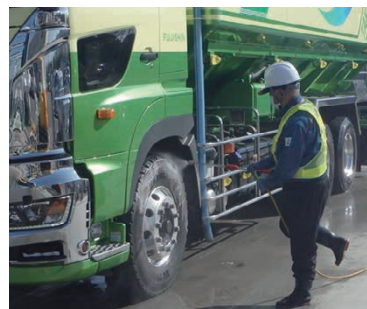
次回は、畜産農場で作業した衣服の消毒・洗濯について紹介します(9月30日号掲載予定)。

くみあい飼料工場でも防疫強化

豚コレラの発生地域が複数県に広がりを見せたため、鶏豚用の配合飼料を製造しているくみあい飼料工場は、今年2月から防疫レベルを最高レベルに引き上げています。工場入場時に運送車両に対して既存の消毒設備、または有人による動力噴霧器を使用し、車両の下回りの消毒強化を図ることで工場にウイルスを持ち込まないよう対策し、安全・安心な飼料製造と輸送に取り組んでいます。



車両消毒をする設備



有人による車両消毒

『全農リポート2019』を発行

事業内容や取り組みを幅広く解説

全農は9月1日、最新の事業内容や取り組みについて紹介する冊子『全農リポート2019』を発行しました。

【広報調査部】

全農は、事業内容などについて幅広く組織の内外へ伝えるため、毎年『全農リポート』を発行し、取引先、関係機関、メディア、有識者などに配布しています。また、シンポジウムや研修会などでも配布・説明し、評価をいただいています。

新ページ「商品紹介」「全農のあゆみ」

このたび発行した「全農リポート2019」では、3か年事業計画、協同組合である全農の役割、生産振興の取り組み、地域を守る取り組みなどについて、幅広く解説しています。

新たなページとして、全農グループの商品を紹介する「商品紹介」ページを設けました。米、青果物、畜産物、加工食品など、幅広いカテゴリーから、代表的な商品や最近発売した商品、他企業とのコラボ商品などを紹介しています。

また、全農のこれまでのあゆみを年表にまとめた「全農のあゆみ」ページも新たに設けました。

事業紹介ページをリニューアル

各事業の紹介ページでは、「情勢」「全農の役割」「全農の取り組み」の3つで構成することを基本とし、全農についてあまり知らない方でも理解しやすいよう、「全農の役割」では流通経路の図を用いるなど工夫しました。

ホームページで公開

『全農リポート2019』は全農ホームページで公開しています。電子冊子でご覧いただけるほか、PDFでのダウンロードもできます。

また、「県本部の取り組み」については、前年同様、全農ホームページに公開した動画と連動しています。



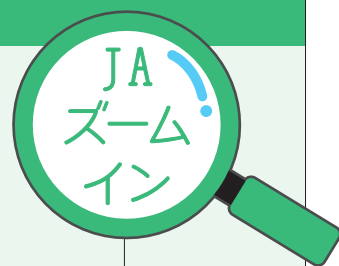
全農や日本農業について理解を深めるために、『全農リポート2019』をぜひご活用ください。

新たに設けた「商品紹介」ページ

【全農リポート2019の内容】ページ

4	トップメッセージ
6	中期3か年計画
12	協同組合としての全農
16	海外ネットワーク
18	商品紹介
20	全国のお店
22	バリューチェーンの構築へ
24	生産振興の取り組み
26	スマート農業
27	「ゆめファーム全農」
28	生産性向上を支える技術開発
30	地域を守る、支える
31	労働力支援の取り組み
32	物流改善の取り組み
33	グループ一体となった事業競争力の強化
34	事業紹介(米穀農産、園芸、畜産販売、輸出、生産資材、総合エネルギー、くらし支援、施設農住)
51	災害からの復旧・復興に向けた取り組み
52	県本部の取り組み
58	社会貢献活動
61	広報活動
62	資料編(組織体制、財務情報等)
68	全農のあゆみ

流通経路の図を用いた「事業紹介」ページ



西日本豪雨からの産地復興へ

かんきつPRで販路を拡大

JAえひめ南は愛媛県の南部に位置し、宇和島市、鬼北町、松野町、愛南町を含みます。温暖な気候で宇和海に面した段々畑が広がるかんきつ産地です。

昨年7月の西日本豪雨で、管内のかんきつ産地は甚大な被害を受けました。JAえひめ南は地域と共に、産地復興に向けて取り組んでいます。



昨年10月に大田市場で行ったトップセールス(上)、特産のブラッドオレンジは真っ赤な果肉が特徴

トップセールスやイベント さまざまな機会売り込み

昨年10月、東京都の大田市場で災害を乗り越えて実った早生ミカンのトップセールスを行いました。宇和島市長や南予地方局長らも駆け付け、有利販売を呼び掛けました。

県内外でのかんきつPR活動にも積極的です。JA主催の「ブラッドオレンジ&宇和ゴールドフェア」は、宇和島市道の駅で8年前から毎年開催しています。また、県外や地元スーパーでの販売促進、宇和島市中部の商店街で開かれた復興イベント「うわじま特産応援フェスタ」へ出店などを行いました。

JAえひめ南 (愛媛県)



概要 平成31年3月31日現在

正組合員数	1万1147人
准組合員数	1万92人
職員数	573人
販売品取扱高	90億8千万円
購買品取扱高	68億円
貯金残高	1987億円
長期共済保有高	4920億6千万円
主な農産物	かんきつ、キュウリ、サトイモ、パレイショ、ブロッコリー、米、ユズ、栗、ピワ、桃、柿



4月16日に全国発売した「キリン氷結 愛媛産せとか」(左)と4月23日地域限定発売の「寶(たから)CRAFT(クラフト)愛媛宇和ゴールド」

入れています。

キリンビールが今年4月、JAえひめ南宇和島共選の中晩かん「せとか」を使った「キリン氷結 愛媛産せとか」を全国販売しました。売り上げ1本につき1円を西

ヤフーと連携し、災害支援を目的に被災地の名産品を紹介するサイト「エールマーケット」で、ブラッドオレンジの生果とジュースを販売しています。

「せとか」「河内晩柑」の 原料提供でアルコール飲料販売

近年、原料提供にも力を

日本豪雨災害の被災地に寄付します。同月、宝酒造が和島市の「河内晩柑」を使った「寶CRAFT(クラフト)愛媛宇和ゴールド」を地域限定販売しました。このような商品を通じて、特産かんきつの知名度向上やファン拡大、農業者所得の増大につながっています。

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

夏秋産地からの出荷最盛期

概況

9月は前月に続いて北海道・東北・高冷地などからの出荷のほか、果菜類は関東産地の抑制物の出荷も増えてきます。

キャベツは、群馬の高冷地や岩手・長野などが中心の出荷となります。群馬・長野・岩手は、7月の長雨・低温の影響から、出荷量は前年を下回る見込みです。

ハクサイは、長野などが中心の出荷となります。8月以降の天候の回復により順調な生育となっています。大きな天候の崩れなどがなければ、順調な出荷が見込まれます。出荷量は、前年並みを見込んでいます。

ダイコンは、北海道・青森などが中心の出荷となります。今年もやや干ばつ傾向ですが、昨年より作柄は良いため、前年を上回る出荷を見込みます。

ニンジン、北海道・青森などが中心の出荷になります。各産地出荷が出そろいますが、全体的に天候も良いため、前年を上回る出荷を見込みます。

レタスは、長野・群馬の高冷地が中心の出荷となります。干ばつからやや小玉傾向であり、前年をやや下回る出荷を見込みます。

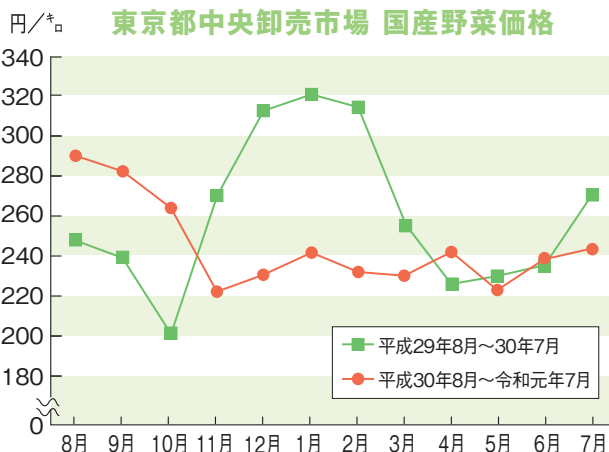
トマトは、北海道・東北産地が中心の出荷となります。北海道・東北産地は気温の落ち着きと出荷後半であることから小玉傾向となります。出荷量は前年並みを見込みます。

キュウリは、東北の露地物から関東の抑制物に徐々に切り替わります。東北産地は出荷量減少となりますが、関東産地からの出荷は増加となります。出荷量は前年並みを見込みます。

タマネギは、北海道からの出荷が始まります。今年は天候に恵まれ、前年を上回る出荷を見込みます。

店頭

9月に入ると、秋の味覚である芋類や、きのこ類などを使ったメニューや、一足早い鍋物メニューの企画も出てきます。また、9月は十五夜、敬老の日、お彼岸などの歳時や、運動会や秋祭りなどの行事が催されますので、行事や行楽シーンに合わせた売り場作り・販促が実施されます。



主産県
だより

8月はキャベツ、ハクサイ、レタス、ブロッコリー、夏秋ピーマン、梨、リンゴの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。



果 実

秋の味覚が勢ぞろい

概況

9月は、夏果実のスイカや桃は出荷の終盤にさしかかりますが、果実全体で見ると、露地物を中心に華やかな季節となります。

ブドウ類は、長野・山梨・岡山などが中心の出荷となります。各産地とも、生育は早かった前年より遅く、中旬がピークとなる見込みです。降水量が多く肥大は順調ですが、春先のひょうや霜、長梅雨の影響により前年をやや下回る出荷量となる見込みです。

梨は、生育が前進傾向であった前年より1週間程度遅い出荷ペースとなっており、9月上旬まで「幸水」の出荷が続きます。9月は「豊水」が中心で、月末には「新高」の出荷が始まります。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

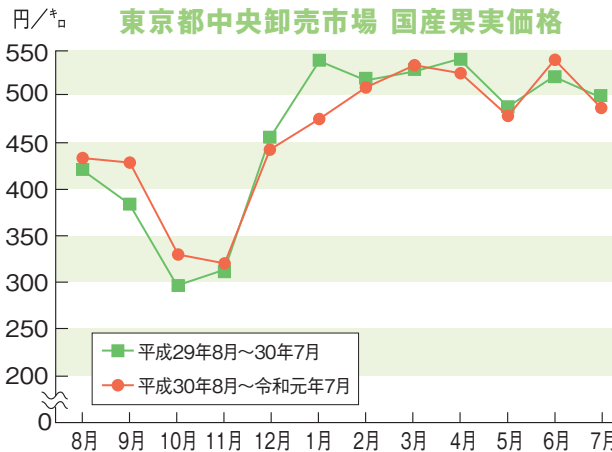
リンゴ類は、長野・山形などに加え、青森産の早生リンゴの出荷も開始されます。東北は干ばつ傾向で小玉化が懸念されますが、生育はおおむね順調です。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

ミカン類は、宮崎・熊本などが中心の出荷となります。今年は裏年傾向であり、出荷量は前年を下回る見込みです。

柿類は、和歌山・奈良などが中心の出荷となります。昼夜の寒暖差が少なく、着色不良が懸念されますが生育は順調で、出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

店頭

9月の果物売り場では、ブドウ、梨、リンゴ、ミカン、柿、栗、イチジクなどの国産果実が一斉に出そろい、秋の味覚で彩られる華やかなシーズンとなります。



10月の第1回国際畜産資材EXPOに出展!

次世代畜産を実現する資材や機械を展示・PR

全農は10月9~11日、千葉市の幕張メッセで開催される「第1回国際畜産資材EXPO」に出展し、畜産ICTなど次世代畜産を実現する資材や機械を展示します。【畜産生産部】



全農グループのブースイメージ

「第1回国際畜産資材EXPO」は、養豚・養鶏・養牛に関する資材・設備が一堂に集まる日本最大の展示会です。この展示会は「第9回農業Week」内で開催され、今年が初めての開催となります。

ブースでは全農をはじめ、全農畜産サービス(株)、(株)科学飼料研究所、JA全農たまご(株)が、牛の発情兆候や体調変化を検知するウェアラブルセンサー「Farmnote Color」や分娩監視システム「牛温恵」、多産と肉質を両立した「ハイコープSPF種豚」や養豚生産管理システム「Web PICS」、鶏の腸内環境を整えサルモネラを低減さ

せる「JA-ZKバチルス」や過酢酸系除菌剤「ビネパワー」などを展示・紹介します。加えて、全農職員や(株)ファームノートなど各社によるミニセミナーも実施します。

また、「第9回農業Week」では、耕種総合対策部の永島聡部長による講演「JA全農がめざす農業ICTの取り組み〜営農管理からドローン活用まで〜」など、全33講演があります(事前予約制)。

招待券の申し込みはこちらから▶



第9回農業week 招待券 検索



食と農のWEBマガジン

Apron

エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web

検索

<https://apron-web.jp/>



JAタウン |

検索
クリック

三重の味自慢 (JA全農みえ)



JAタウンは
こちらから



【10%割引】非常時持出米 白飯 6缶セット
JAみえきた【期間限定】(110g×6缶)
……4284円(基本送料・税込)

非常時持出米
赤しそ飯缶

JA全農みえ「三重の味自慢」からご紹介するのは、JAみえきた「非常時持出米」です。

三重県産「コシヒカリ」を100%使用した「非常時持出米」は、8年間の長期保存が可能な「おいしい非常食」!

お湯または水を注ぐだけでふくらんだご飯が出来上がります。

種類は白飯の他、赤しそ飯。天然水とセットの防災スタートパックもご用意しています。ご自宅用としてはもちろん贈り物としてもご利用いただけます。

ショップでは、9月16日まで「防災の日キャンペーン」を実施しています! 期間中は通常よりお得にお買い求めいただけるほか、賞味期限が少し短い商品を「訳あり」として大特価で販売しております。

ぜひこの機会に災害への備えはいかがでしょうか。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。